

★5 年目の活動テーマの具体化

今年度掲げた活動テーマ「港地域のニーズ把握から“福祉文化としてのご近所を描く”」の意味するところは、これまでの 4 年間で振り返ると、「地域ぐるみの居場所の検証」「ご近所の支え合いの検証」「子どもを取り巻く地域を検証」「高齢者を取り巻く地域の検証」と、全体的に取りまとめると「地域を知る」「地域の現状の把握と課題発見」に取り組んできたことが確認できる。

5 年目の節目である今年度の活動は、これまでの 4 年間の活動から浮き彫りになった「地域の現状及び課題」を整理するとともに、次の段階として、住んで良かったと思える地域づくりの第一歩として、住民一人ひとりが、いかにして地域づくりに関わることが大切か、そして、これまで浮き彫りにした課題を、「地域の資源発掘」として、住民主体で解決していくプロセスを、理論と実践により取り組むことを「活動テーマ」に置き換えて取り組んだ。

具体的には、日常の生活を通して、世代や領域を超えた地域住民と向き合う機会を意図的に作りながら、相互理解を深めることや、「地縁組織」の現状の把握と、「志縁組織」の活動の発掘に努め「学校教育と社会教育」「行政と市民」（専門性と市民性）の「融合」について、さらに、一步踏み込んだ議論を深めた。本会の地域活動の在り方を広く管内外に情報発信し、管内で問題解決を完結することなく、地域活動への問題提起を心がけた。

市民主体による地域づくりの具体的な学習方法を問題提起し、これまで活用してきた、地域学習教材としての「若者発 ご近所福祉かるた」を「調査報告書」や「研究会通信」に積極的に掲載し紹介をした。

1. 2023 年度 本会活動の着眼項目

- (1) 世代や領域を超えて、「身近な生活環境でのコミュニケーション力発揮の工夫」、「語れる環境」、
「地域総合型学習」の醸成に努める。
- (2) 常に、これまでの地域課題の整理に努め、地域社会に向けて「課題提起」する場をつくる。
- (3) 「地縁組織」と「志縁組織」の「協働による地域づくり」に努める。
- (4) 地域課題解決に向けた「行政と市民の協働」の在り方を、日常生活を通じて働きかけていく。
- (5) 「地域資源の把握」を、「専門性と市民性の融合」で「見える化・わかる化」に努める。
- (6) 活動の維持のための「活動財源確保」に努める。
- (7) 「若者の地域参加」と「高齢者の社会的自立(地域参加)」による「地域づくり」への試みを発信。
- (8) 地域をトータルにコーディネートする機能を検証する。

2. 会議・研修会等

- (1) 定例研修会…12回開催（原則毎月第2土曜日 18:30～21:00）
- (2) 協働団体：静岡福祉文化を考える会と「共創社会実現研究会（調査部会）」…10回開催
- (3) 地縁団体「小川地区コミュニティ推進会」「港地域づくり推進会」へ調査事業協力の呼びかけ
- (4) 管内自治会関係者会議で、調査研究事業の経過説明・報告で出席
- (5) さわやかクラブ・焼津市民生委員児童委員協議会へ調査研究事業協力呼びかけ
- (6) 管内の2つの中学校（小川中学校・港中学校）に、「調査研究事業」に関して、事前協議、経過報告、調査報告研修会等に関する協議

3. 活動内容

(1) この4年間取り組んできた「調査研究事業」を、定例研究会で継続検証活動

- ① 「地域ぐるみの居場所」検証事業（1年目調査研究事業）
- ② 「ご近所福祉 その意識と実態調査」検証事業（2年目調査研究事業）
- ③ 「“福祉”ってなに？ 244名の子どもたちに聞きました調査」検証事業（3年目調査研究事業）
- ④ 「ホッとする安心した地域づくりその意識と実態調査」検証事業（4年目調査研究事業）

(2) 「地域課題解決と地域資源の発掘」検証活動

「地域資源を有効活用できるか」を、改めて、本研究会において検証することとした。

4月－全体把握 5月－買い物・移動支援（企業の社会貢献時代） 7月－港地域の自治会単位の高齢化率・年少人口・生産人口の情報収集呼掛け 8月－「港地域づくり推進会の現状」「第12町内会の現状」 9月－「焼津市内のミニディ・居場所の現状」 10月－小川・港管内の児童・生徒の推移 11月－障害児者事業所の現状 12月－その後（5年後）の管内の介護事業所等の現状 1月－幼稚園・保育園の現状 2月－自治会単位 町内会・組の世帯規模数 3月－公園整備状況等を検証した。

(3) 会員レポート研修の取り組み

2年目を迎えた、今年度も、「会員レポート」を継続して取り組んだ。

「会員を知る」から、一歩見えてきたことは、「語れる環境なくして、問題解決の一步はない」。

人前で、こんなことを話しても、話が「共有」しない限り、進展はしない。こうした、一年間の取り組みから、検証できていることは、制度で「公的機関・専門家による相談」をいろいろと個別に対応する時代を迎え、今一度「地域の教育力」「地域で問題解決できる地域力」「世話焼きさん・おせっかい屋さんの復活」もほしいと感じる2年目であった。12回開催。

- ・第1回（5月）「所変われば、自治会・町内会の名称は違う 住民の意識変革で地域が輝く」
- ・第2回（6月）「なかなか、普段の生活において、“死”について話すことは出来ない語れる環境の中で話してみたい」
- ・第3回（7月）「ワーカーズユープ主催－“医師 中村哲 仕事・働くこと”の映画を観て感じたこと」
- ・第4回（8月）「地域を知る、仲間づくり、楽しい時間をモットーに 私の地域活動実践」

- ・第5回(9月)「地域に日頃から関心を持ち、関わっている立場から、地域(地域づくり)は、一体だれが担うのか」
- ・第6回(10月)「地域密着型介護事業所と地域との共生の現状と、チームオレンジコーディネーターの委嘱を受けて感じること」
- ・第7回(11月)「今、改めて“居場所”を考える」
- ・第8回(12月)「娘との今まで、現在、そして、これから」
- ・第9回(1月)「防災訓練がもたらす恩恵」
- ・第10回(3月)「かれこれ、自治会広報誌が誕生して10年
いかに、地域を“見せる化・見える化”していくか」

(4) 中学生対象「私にとって“ご近所”とは 中学生の意識と実態調査」検証事業

本会は、2019年度結成以来、「専門性と市民性の融合」、「地域総合型学習」、「地域課題把握」の3つの活動基調を基に「実践検証」「学習検証」「調査検証」の具体的な活動を展開してきた。

特に、この4年間、「調査研究活動」を重要な活動として、下記の取り組みをしてきた。

- 2019年度：地域ぐるみの居場所検証(大人全般対象 55団体把握)
- 2020年度：居場所を取り巻く“ご近所福祉”検証(大人全般対象 345名回答)
- 2021年度：子どもから大人社会への提言(小学生4~6年生対象 244名回答)
- 2022年度：コロナ禍下における高齢者を取り巻く地域社会の現状と、コロナ明けの地域のささえあいの仕組みづくり検証(高齢者対象 315名回答)

5年目の今年度は、「地域ニーズ把握から、“福祉文化としての地域のご近所を描く”」の本会活動テーマをもとに、中学生が地域社会に関心を抱き、積極的に地域参加をし、近い将来地域の担い手として期待をする中学生を対象に、身近な地域に対する意識と実態を把握し、世代間交流できる、これからの地域づくりに向けて、大人社会に提言する目的で、「私にとって“ご近所”とは 中学生の意識と実態調査」を実施した。

*協働団体 静岡福祉文化を考える会

*協力

焼津市立小川中学校 焼津市立港中学校 小川地区コミュニティ推進会 港地域づくり推進会 さわやかクラブ連合会やいづ 焼津市民生委員児童委員協議会

*調査対象 管内の中学生(1~3年生)を対象に、約200名の回収を目標にしたが、予想を大きく上回る476名からの回答をいただいた。

*調査依頼/配布方法 各学校との協議により、生徒の自発的な取り組みによる協力で実施

*調査項目

- | | |
|----------------|------------------------|
| (1)基本属性 | (4)地域社会・地域活動に関すること |
| (2)生活状況 | (5)地域社会における福祉実体験に関すること |
| (3)家庭・家族に関すること | (6)福祉社会への期待・提言(自由意見) |

*調査の展開

(1)調査実施要項・調査票検討 2023年07月~2023年08月10日

・各学校関係者との協議、「本会定例研究会」、「共創社会実現研究会(調査部会)」を中心に

検討した。

- (2) 調査実施要項・調査票完成 … 2023年08月20日
- (3) 調査依頼（実施期間） … 2023年08月25日～2023年09月30日
・回収まとめ…2023年09月30日
- (4) 入力期間 … 2023年10月01日～2023年10月30日
- (5) 分析・考察 … 2023年10月30日～2023年12月01日
- (6) 調査報告書完成 … 2024年01月20日
- (7) 公表・報告 … 2024年02月03日
・公開型調査報告研修会，関係機関・団体等の各種研修会に情報提供
・本会通信経過報告及び考察概要掲載

(5) 「共創社会実現研究会（調査部会）」の設置・開催

*「私にとって“ご近所”とは 中学生の意識と実態調査」を実施するにあたり、地域社会の現状認識、計画に基づく円滑な調査の展開協議(調査個票作成、調査集計・分析、調査結果考察、調査報告書編集、調査公表検討等)の議論を深めるとともに、調査結果をもとに、地域の教育力、次世代の地域の担い手の育成の課題や、若い世代の積極的な地域参加できる地域環境を醸成し、世代を超えた地域ぐるみの支え合いにより、地域共生社会づくりのあり方を大人社会に提言するための議論をする目的で設置した。

*構成

専門性と市民性を融合した住民主体を基本に、本会会員、協働団体会員及び、本事業に関心を持つ関係者の自発的な参画による構成をもって運営した。

*協力 本会及び静岡福祉文化を考える会から情報提供してきた関係領域及び地域実践者

*設置期間と研究会開催日

- ①設置期間 本事業活動期間（令和5年7月1日より令和6年3月31日まで）
- ②開催時期 本事業活動期間（令和5年7月1日より令和6年3月31日まで）に10回開催

回	開催日時・会場	研究協議内容(概要)
第1回	7月 8日(土)18:30 北川原公会堂	研究会の位置づけと方向性、地域の現状認識、課題整理
第2回	7月 15日(土)18:30 北川原公会堂	調査実施計画協議(調査実施要項・調査個票)
第3回	8月 19日(土)18:30 北川原公会堂	調査票配布検討、調査実施上の課題、調査集計作業
第4回	9月 9日(土)18:30 北川原公会堂	調査回収状況、調査集計作業、協働の課題
第5回	10月14日(土)18:30 北川原公会堂	調査集計作業及び考察作業(意識と実態と提言)
第6回	11月11日(土)18:30 北川原公会堂	調査から見えた意識と実態と地域づくりの課題考察①
第7回	12月16日(土)18:30 北川原公会堂	調査から見えた意識と実態と地域づくりの課題考察②
第8回	1月13日(土)18:30 北川原公会堂	調査報告書ページ仕立て作業、入稿、報告研修会計画
第9回	2月 3日(土)10:00 石津コミセン	調査報告書完成、調査結果の検証、調査報告研修
第10回	2月24日(土)18:30 北川原公会堂	研究会総括(成果) 県社協への報告確認

●昨年度は、定例研究会と切り離して設置したが、特定の会員への周知にとどまっていたので、今年度は、定例会開催日に、前半と後半に区切り設置し、活動の円滑化を図った。

(6) 「私にとって “ご近所” とは 中学生の意識と実態調査報告書」の作成と配布

*これからの地域づくりに向けて、地域社会に関心を抱き、近い将来、地域の担い手を期待する管内の中学生対象に、身近な地域に対する意識と実態を把握し、世代間交流できる地域社会づくりに、若者の地域参加の必要性を呼びかけ、地域社会の活性化と、地域づくりの再構築を検証する目的で、「私にとって “ご近所” とは、中学生の意識と実態調査」を管内の焼津市立小川中学校及び港中学校、2校の全面的なご支援とご協力、「地縁団体」「志縁団体」のご理解をいただき調査研究事業に取り組んできた。中学生からいただいた尊い意見を考察し、今日の地域環境の課題を改善・解決し「共創社会」をめざして、広く、管内外の地域社会に提言することを目的に「調査報告書」を作成した。

*調査報告書作成過程

- (1)起案時期 令和5年9月に、7月に設置した「共創社会実現研究会（調査部会）」の「第4回調査部会」にて「調査報告書作成企画書」（案）を協議決定
- (2)編集期間 令和5年12月1日～令和6年1月10日
回収した「調査個票」を順次会員によりデータ入力をするとともに、「クロス集計考察」をし、「調査報告書企画書」に基づき編集作業に取り組んだ。
- (3)印刷期間 令和6年 1月10日～令和6年1月25日
- (4)配布期間 令和6年 1月25日～1月28日 *助成事業報告
- (5)事業総括 令和6年 3月「本会定例研究会」及び「第10回共創社会実現研究会（調査部会）」にて総括

*配布領域区分

No.	配 布 先	配布部数
1	研修会参加者	16
2	焼津福祉文化共創研究会会員	10
3	協働団体：静岡福祉文化を考える会	2
4	関連団体：日本福祉文化学会	1
5	焼津市社会福祉協議会	1
6	焼津市V連絡協議会	1
7	2中学校(小川中学校、港中学校)	2
8	2小学校(小川小学校、港小学校)・県立青少年の家	3
9	マスコミ各社	2
10	管内2公民館(小川公民館・港公民館 地域活動拠点事務局)	2
11	焼津市民生委員児童委員協議会	1
12	コミュニティ組織(5自治会)	5
13	焼津市関係行政課(市長、教育委員会)	2
14	静岡県社会福祉協議会	1
15	さわやかクラブ連合会やいづ	1

合	計	50
---	---	----

(7) 「協働団体との意見交換会」の開催：延べ4回

本事業を円滑に取り組むために、意見交換を中心に取り組んだ。

(8) 「中学生の“ご近所”その意識と実態調査結果報告研修会」開催

研修テーマ：地域を変える 中学生の“ご近所福祉”への提言とは

本会は、2019年度結成以来、「専門性と市民性の融合」「地域総合型学習」「地域課題把握」の3つの活動基調を基に「実践検証」「学習検証」「調査検証」の具体的な活動を展開してきた。この4年間、「調査研究活動」を重要な活動として、下記の取り組みをし、その都度調査結果を「公開型調査報告研修会」として、地域の課題を市民に対して問題提起をしてきた。

- * 2019年度：地域ぐるみの居場所検証（大人全般対象 55団体把握）
- * 2020年度：居場所を取り巻く“ご近所福祉”検証（大人全般対象 345名回答）
- * 2021年度：子どもから大人社会への提言（小学生4～6年生対象 244名回答）
- * 2022年度：長引く厳しいコロナ禍下、地域（ご近所）の支え合いの仕組みづくり検証（高齢者対象 315名回答）

5年目の今年度は、地域社会に関心を抱き、近い将来、地域の担い手として期待をする中学生を対象に、身近な地域に対する意識と実態を把握し、若者の地域参加の必要性を呼びかけるとともに、世代間交流できる、これからの地域づくりに向けて、大人社会に提言する目的で、「私にとって“ご近所”とは 中学生の意識と実態調査」を実施した。この調査結果を地域市民に報告するとともに、これからの地域づくりを、世代を超えて語り合う目的で開催した。

- * 主催 焼津福祉文化共創研究会 * 協働団体 静岡福祉文化を考える会
- * 協力 焼津市立小川中学校 焼津市立港中学校 焼津市民生委員児童委員協議会
- 港地域づくり推進会 小川地区コミュニティ推進会 さわやかクラブ連合会やいづ
- * 着眼項目

- (1) 協働による、地域活動を検証する場
- (2) 中学生の“ご近所”の意識と実態を理解し合う場
- (3) 地域の課題発掘の「調査活動」5年間のプロセスを学ぶ場
- (4) 小地域における地域の支え合いの仕組みの“アイデア”を出し合う場
- (5) いかにか、ご近所を「見える化」「わかる化」するかを学び合う場

* 開催日時 令和6年2月3日（土） 13：30～16：00

* 開催会場 焼津市石津 「焼津市石津コミュニティ防災センター」1階展示室

* 参加者 30名

- * 主なプログラム
 - ・ 基調報告「協働による、地域活動のプロセス 5年の歩み」
 - ・ 調査報告「中学生の“ご近所”その意識と実態調査」結果から見えたもの
 - ・ 円卓トーク

「さあみんなで、安心して暮らし合う地域づくりを語りましょう。」

●中学校との連携が出来た。2年前の子ども対象調査でも、小学校・PTAとの関係が出来たことから、意図的な取り組みにより「教育と福祉の融合」の実現が出来た。

(9) 関係機関・団体との連携

- ① 静岡県社会福祉協議会、焼津市社会福祉協議会及び近隣社協への情報提供・連携
- ② 「地方発 福祉文化の創造」の実践を基に、静岡福祉文化を考える会及び日本福祉文化学会との情報共有と活動の協働
 - 各種事業の取り組みについての情報提供
 - 各種事業の実践活動の共有
- ③ 関係機関・団体、大学・専門学校及び管内学校教育・社会教育領域への情報提供
- ④ 焼津市V連絡協議会との連携
 - 定例総会出席
 - 定期V連代表者会議出席と情報提供（通信配布）、問題提起による活動活性化の提言
- ⑤ ふじのくに未来財団への情報提供
- ⑥ 静岡県コミュニティづくり推進協議会への情報提供
- ⑦ 管内福祉施設連絡会(介護事業所)との連携と情報共有（通信配布）
- ⑧ 港地域づくり推進会（事務局：港公民館）及び管内自治会（町内会）への情報提供
- ⑨ 小川地区コミュニティ推進会（事務局：小川公民館）
- ⑩ 公益財団法人あしたの日本を創る協会への情報提供
- ⑪ 公益財団法人さわやか福祉財団への情報提供
- ⑫ 公益財団法人愛恵福祉支援財団への情報提供
- ⑬ その他、必要に応じて関係機関・団体に情報提供

●今年度は、新たに「小川地区コミュニティ推進会」との関係が出来た。

●地区民協から、範囲を市民協に広げて、情報提供を積極的に実施できた。

(10) 広報啓発活動

- ① 「日本福祉文化学会」HPを主体に、「静岡福祉文化を考える会」ブログとのリンクによる本会ブログにより、広く活動を通じた問題提起を発信。
- ② 焼津福祉文化共創研究会通信の発行（原則、毎月1回発行、A4版、両面印刷）

PCメール送信先	配布及び郵送
----------	--------

1. 静岡県行政各課（地域福祉課/静岡県民生委員児童委員 関連部署地域振興課） 2. 焼津市行政各課（地域福祉課・市民協働課・広報課・ 地域包括ケア推進課） 3. 静岡県・焼津市各社会福祉協議会 4. 静岡県コミュニティづくり推進協議会 5. 公益財団法人さわやか福祉財団 6. 公益財団法人愛恵福祉支援財団 7. 公益財団法人あしたの日本を創る協会 8. ふじのくに未来財団 9. 静岡福祉文化を考える会役員 10. 管内福祉施設連絡会（13介護事業所） 11. 管内外活動グループ・個人（10） 12. 管内中学校（2） 13. マスコミ各社 14. 県内NPO法人（2） 15. 港地域づくり推進会（港第14自治会長）	1. 会員（10） 2. 焼津市ボランティア連絡協議会加盟団体 （17） 3. 静岡福祉文化を考える会役員（20） 4. 港地域づくり推進会 5. 港第14自治会（17） 6. 港第23自治会（19） 7. 小川小学校 8. 小川中学校 9. 港小学校 10. 港中学校 11. 県立焼津青少年の家 12. 小川地区コミュニティ推進会 13. さわやかクラブ連合会やいづ 14. 小川公民館 15. 港公民館 計 90枚
--	--

③ マスコミへの積極的な情報提供

④「本会紹介パネル」を作成し、港公民館まつりの自治会活動展示コーナーに展示

4. 活動を振り返る（成果と課題）

(1) 本会は、今年度、節目となる5年目の活動に取り組んだ。小さな活動(課題を掘り起こす)をいかに大きな活動(地域社会に課題提起)に展開できるか、工夫をしながら、そして、地域づくりに向けた「協働活動」のあり方を模索しながら実践し、地域社会に発信してきた。

(2) 特に、中心的な活動として取り組んできた中で、

* 1年目は、集める居場所ではなく、集まる居場所でありたいと議論しながら、地域社会において、今につないでいる「地域ぐるみの居場所検証」に取り組んだ。

* 2年目は、「ご近所福祉の検証」をした。

* 3年目は、にわかに、社会全体に子どもを取り巻く地域課題が浮き彫りになり、地域の子どもの地域で育むことが出来ているかを問う目的で、子どもたちから、地域の課題を発信する取り組みとして「子どもから地域社会への提言」をテーマに子ども対象調査に取り組んだ。学校教育(小学校)との連携、地域社会にある子供会組織への働き等に努めた。本会の活動を通じて、これまでも、「教育と福祉の融合」について議論し、学校教育と社会教育との連携の在り方も課題として取り上げ、ささやかではあるが、管内の学校及び社会教育施設への情報提供に努めてきた。

* 4年目の活動は、「高齢者」の地域社会における見え隠れが課題として挙げられ、地域からの支え合いで、積極的に社会参加できる地域環境を問う取り組みとして「コミュニティ組織の再構築の検証」に取り組んだ。5年目の今年度は、これまで、話題にしてこなかった「中学生」の地域社会における存在をこれからの地域づくりにいかに活かせるかを検証する目的で「地域づくりへの

新たな提言検証」に取り組み、更に、学校教育領域(中学校)との連携と、コミュニティ組織(2つの中学校区を取り巻く地縁組織)への協力を働きかけて、引き続き、厳しいコロナ禍下、猛暑の中ではあったが、本会の活動を休止することなくここに、「プロセスを重視した福祉文化実践活動」が展開できた。

(3) 一般的に、こうした地域活動の「3要素」として、次のようなことが問われてきた。

これに対して、本会では、関係方面のご理解とご支援により、細く地道な活動が保障されてきたことは幸いであった。

①「もの」・・・活動拠点

常設的な活動拠点は無いが、管内の地域資源として、地縁団体(町内会)の理解をいただき、活動出来る基盤は、なんとかこの5年間維持された。

②「ひと」・・・人脈・コーディネート

集めるグループではなく、集まるグループ、地域を知り、地域の課題を学習していく、性差や世代を超えた意見交換が出来る、専門性と市民性を融合しながら、市民としての学び合いが出来る環境に努めてきた。

③「財源」

会費制を維持しながら、結成当初から、活動目的に応じて財源確保に努めてきた。

1年目 赤い羽根助成事業「地域ぐるみの居場所検証事業」(56,000円)

静岡県コミュニティづくり推進協議会活動集団助成事業

「地域ぐるみの居場所調査報告書作成事業」(2019-2020の2年間で100,000円)

2年目 赤い羽根助成事業「ご近所福祉検証事業」(100,000円)

3年目 赤い羽根助成事業「小学生対象:福祉意識検証事業」(80,000円)

4年目 公益財団法人さわやか福祉財団/地域助け合い基金助成事業(200,000円)

赤い羽根助成事業「みんなで福祉を創る講座事業」(48,000円)

5年目 赤い羽根助成事業「中学生対象:ご近所検証事業」(80,000円)

●この5年間で、尊い各種助成金総額は、約664,000円で、活動が出来た。

今後においても、活動資金の開拓は大きな課題である。

(4)「教育と福祉の融合」は、2021年度に、小学生(小学4年生～6年生)対象に「福祉ってなに? 244名の子どもたちに聞きました調査事業」では、管内2つの小学校(小川小学校・港小学校)の協力と子ども会世話人の皆さんの協力により、対象児童数約280名のうち244名の児童からの回答(回答率約87.1%)をいただいた。今年度は、中学生対象に実施した意識と実態調査事業は、対象生徒約583名のうち、476名の生徒から、尊い回答(回答率約81.1%)をいただいた。特に、中学生対象調査事業については、相当困難を予測していた。

学校側との事前協議を重ねる中で、あくまでも中学生の主体的な調査協力をお願いした。

その結果、本会が、掲げた回収目標を、大幅に上回った回答実績となった。

こうした調査事業は、決して、当初から、本会独自で成し遂げられるものではなく、全面的な管内の小・中学校のご理解ご支援とともに、コミュニティ組織(地縁組織+志縁組織)のご理解により、こ

れまでの調査事業の成果を生み出している。現在、管内では、「コミュニティスクール事業」に取り組まれている中で、この調査の考察は、今後、地域社会のあるべき方向性を示すことが出来れば幸いである。

(5) 「協働」による地域づくりについて、今後に向けて、更に積極的に「地縁組織」に働きかけていき、加えて、関連福祉団体が、「志縁組織」の取り組みを認識し、歩み寄ることを期待したい。

そのためにも、本会の活動の「見える化」、「わかる化」の努力が求められる。

(6) 本会の日頃の活動を常に広く、県内外や管内外に、積極的に情報発信する努力した。

①協働団体:静岡福祉文化を考える会を通じて、日本福祉文化学会等とブログに活動状況をアップし、「地方発 福祉文化の創造」を発信してきた。

②本会広報誌「焼津福祉文化共創研究会通信」を、結成以来、現在まで通算 55 号発行し、毎月 90 部発行し、配布してきた。

(7) 今一度、本会結成の原点に戻る活動の必要性から、今年度「地域資源の把握と地域課題解決」を活動の一つに取り上げ、改めて、地域を知ること努めた。

「管内の世帯状況」「管内の小学校・中学校の児童・生徒数」「管内の居場所・サロン設置状況」「管内の高齢化率・年少人口比・生産人口比の現状」「管内の障害者支援事業所の現状」等を確認し合った。更に、「幼稚園・保育園設置状況」「管内の外国人居住状況と地域交流の現状」「管内のさわやかクラブ組織の状況」「子ども会組織状況」等を今後の地域づくりの課題としたい。

(8) 「語れる環境なくして、問題解決の一步はない」と、定例研究会に組み入れた「会員レポート」は、2年間継続出来た。「会員を知る」ことから、今後は、ゲストを迎えた学びを試みたい。

(9) これまでの本会の5年の活動から、多少見えてきたのが「小地域活動」のあり方、とりわけ、「ご近所福祉」をどのように捉えていくかである。「現代版 ご近所福祉の復活」を試みる化の大きな課題が浮き彫りになっている。これまでの調査活動から考察を整理する課題がある。

●長いコロナ下で、コミュニティ運営に関わる関係者の意識の希薄化が気になる。

コミュニティを存続していく上で、基盤となるものをしっかりと認識していくことが必要と思うが、十分に受け止めることが出来ていない。誰が伝えていくべきか、大いに気になるところである。

●2023年度の焼津福祉文化共創研究会の北川原公会堂使用実績は、14回 延べ92名